

## 2018年(平成30年)漁期 沖合底びき網におけるズワイガニの見通し

### ○解禁直後(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…資源尾数は前年を上回り、平年(直近3カ年平均)を上回る

※前年より甲幅12cm以上のカニの割合が増加しており、漁獲量は上回る見込み

若松葉…資源尾数は前年を上回り、平年を上回る

※前年と同様なサイズであるが資源管理強化もあり、漁獲量は前年並の見込み

親がに(雌)…資源尾数は前年並で、平年並となる

※漁獲量は前年並の見込み

### ○漁期全般

オスガニの資源量が増加し、沖合底びき網漁船も前漁期の23隻から24隻に増加していますが、今後の資源悪化対策として資源管理強化を実施しているため、今漁期の漁獲量は、前年並と見通す。

### 【解禁直後の見通しの根拠となった情報】

調査船「第一鳥取丸」による調査結果 10月4日～23日にかけて、山陰沖の水深184m～432mの海域において、合計27の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました(図1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)

区分	2015年	2016年	2017年	2018年	前年比	平年: 2015-17平均	平年比
松葉がに(甲幅9.5cm以上)	38.5	51.5	54.7	88.7	162%	48.2	184%
若松葉(甲幅10.5cm以上)	423.6	345.6	364.5	478.4	131%	377.9	127%
親がに(くろこ)	198.8	230.9	229.0	222.4	97%	219.6	101%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

**松葉がに：**前漁期の若松葉漁が海況悪化等により漁獲圧が低かった影響もあり、出雲沖、隠岐北西方沖で増加したため、推定資源尾数は前年比162%、平年比184%となりました(表1、図2左)。甲幅9.5～12cmの小～中型個体が主体ですが、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い結果となりました(図3、4)。

**若松葉：**前年同様に、出雲沖、隠岐北西沖で推定資源尾数は多く、前年比131%、平年比127%となりました(表1、図2中央)。サイズも前年同様に、甲幅10～12cm台の小～中型個体ですが、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い結果となりました(図3、4)。

**親がに：**出雲沖で減少したものの、鳥取沖、隠岐北西沖で増加したため、推定資源量は前年比97%、平年比101%となりました(表1、図2右)。サイズは前年同様に甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりますが、前年より大型個体が多く確認されました(図3)。

### 【漁期全般の見通しの根拠となった情報】

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移 本県のズワイガニ漁獲量は2004年に1,587トまで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています(図5)。2017年漁期の漁獲量は松葉がに243ト、若松葉105ト、親がに476ト、合計824トで、前年(937ト)及び平年(930ト)を下回りました。
- (2) 水研機構日水研調査(調査月：5-6月)： 国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区水産研究所は、日本海A海域(富山県以西)における2018年漁期当初のズワイガニ資源量について、カタガニ(松葉がに)、ミズガニ(若松葉)、メスガニ(親がに)は前年を上回ると推定しています(図6-7)。

- (3) **まとめ** 第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では、漁獲対象となるメスガニの資源は維持されており、オスガニの資源も一次的な増加が見られています。しかし今後の加入状況は悪化すると考えられており、このような状況から、鳥取県沖合底曳網漁業協会は、兵庫県沖合底曳網漁業協会と協力して資源管理の強化を進めています。前漁期は、隠岐西方海域に、今漁期は新たに隠岐北西海域にミズガニ保護区（周年の操業自粛）を設定。また2016年漁期から開始した11月の休漁についても引き続き3日間実施します。

## 今後の資源状況

甲幅 10cm 前後のオスの未成体ガニが多く、順調に成長し、漁場に参加すれば来年漁期までは現状以上の資源量を維持できると考えられます。しかし、メスは来漁期の漁獲対象となる「あかこ」の資源量が少なく資源水準は低下すると考えられます。また、雌雄ともに甲幅 9cm 未満の未成体の資源量も多くないことを考慮すると、2019年漁期からメスガニが、2020年漁期にオスガニが減少し始め、2023年まで資源水準は低下すると考えられます。このため、今漁期から先行して実施となった漁獲量規制など、資源の減少を食い止めるための更なる資源管理に努める必要があります。

**ホームページ** 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL : <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1138806/2018kani.pdf>

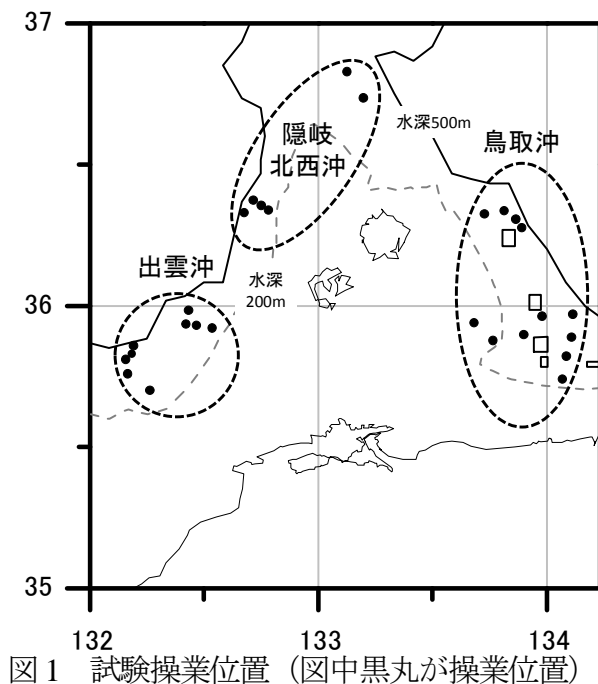


図1 試験操業位置 (図中黒丸が操業位置)

## その他

2015年漁期から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

(五輝星の基準)

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形状	脚が全てそろっているもの
重さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

2017年漁期は約 51 万枚水揚げされた松葉がにの中から、45 枚 (平均 3.0 万円/枚) が五輝星に選定されました。本調査結果から今漁期は、大型の松葉がにが前漁期より多いことが予測されおり、前漁期よりは多くの五輝星が市場に並ぶ可能性があります。

図2 年別海域別の資源尾数 (2014-2018年：平年は2014-17年平均値)

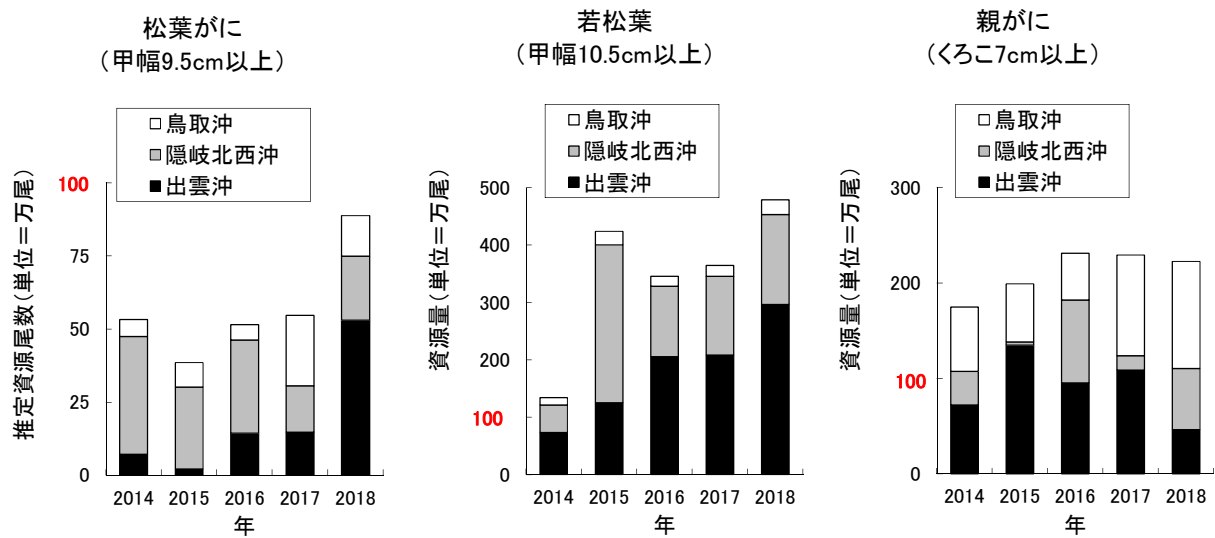


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2015-2018年)

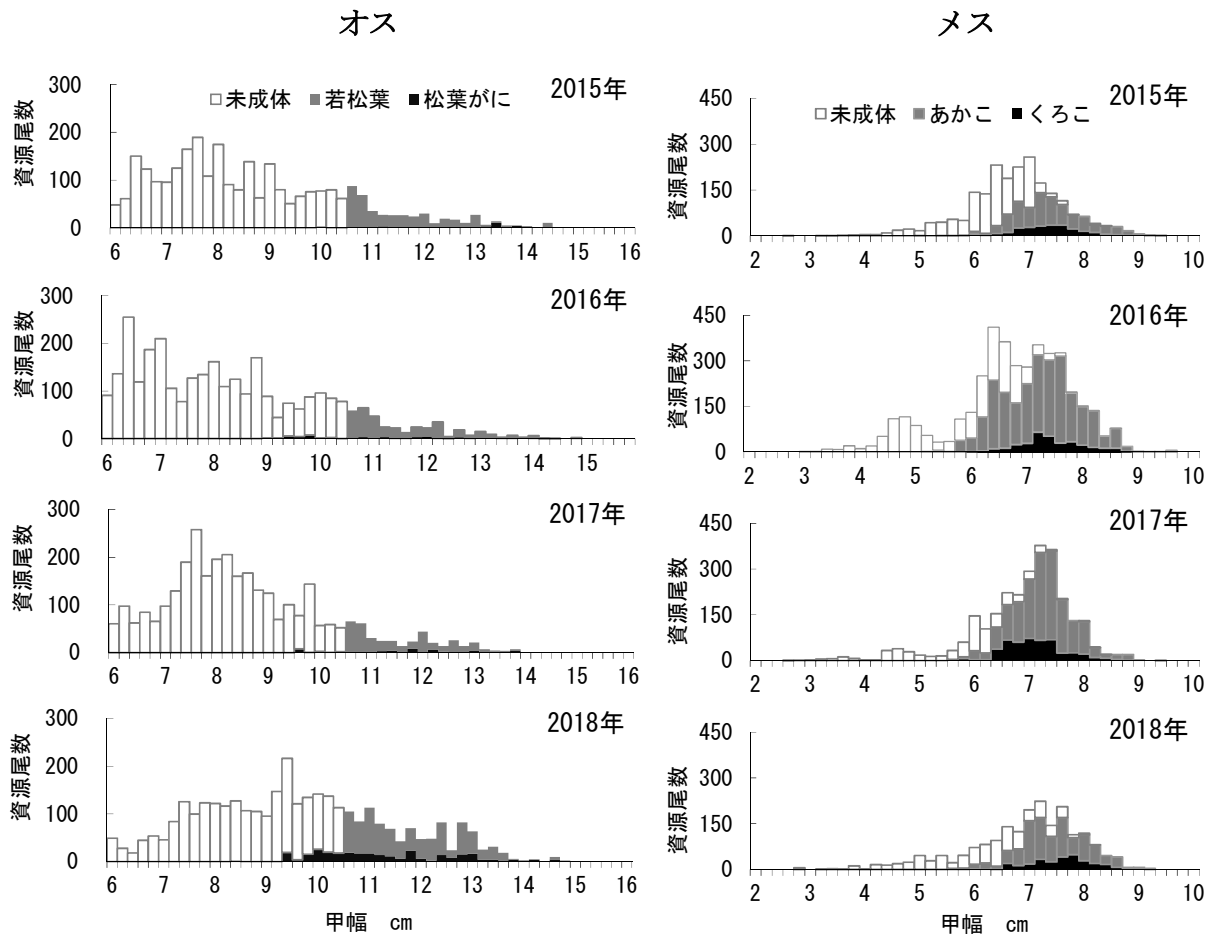


図4 トロール網による調査海域全域における漁獲物サイズの雄ズワイガニ甲幅組成の比較 (2017,2018年)

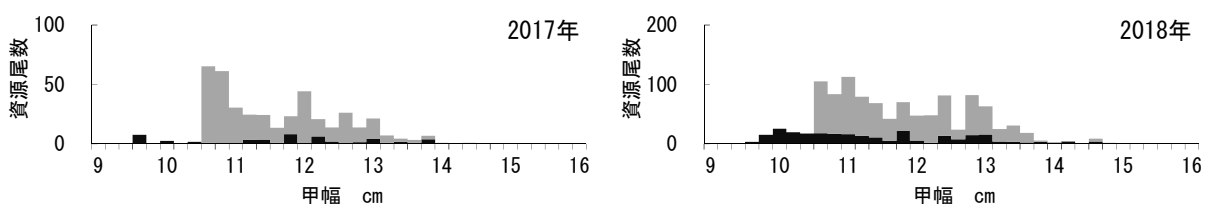


図5 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

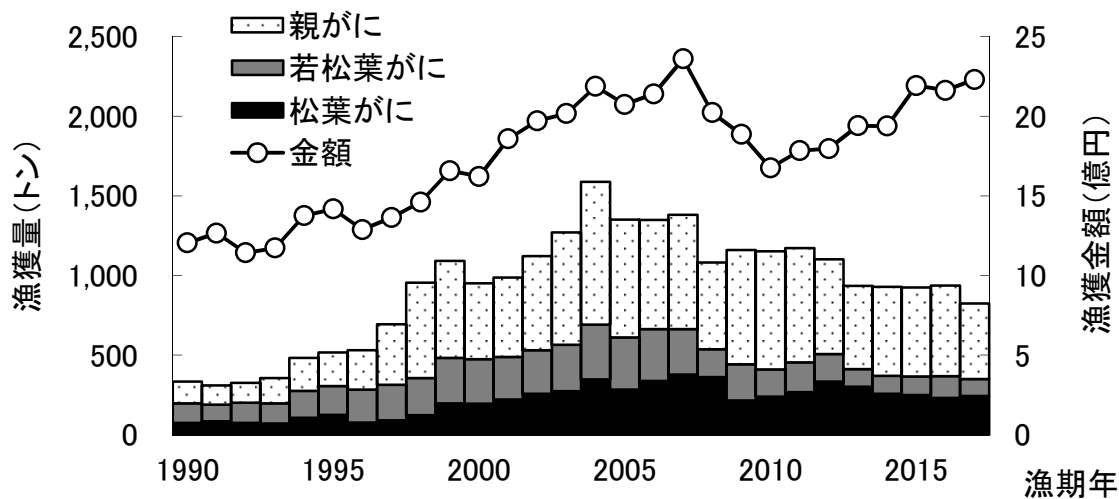


図6 A海域（富山県以西）における雄ズワイガニの資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

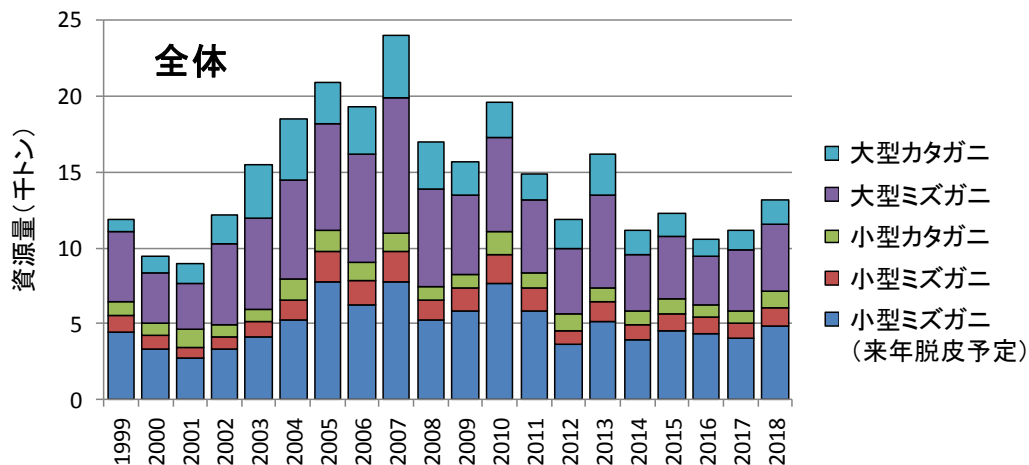


図7 A海域（富山県以西）における雌ズワイガニの資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

